

静岡 陸協 会報

第 20 号 (2016年 9月10日 発行)
 一般財団法人
 静岡陸上競技協会
 〒420-8508
 静岡市葵区鷹匠 1-14-31
 吉野寿ビル 2F
 TEL・FAX 054-253-9801



静岡陸上競技協会
副会長 池田 毅

思い出 (ナイター競技)

昭和六十三年の全国高校総体時に、三年後の昭和六十六年は静岡県で開催されることが決定した。66総体に向けて、準備が始まった。

しかし、昭和六十四年(一九八九)、昭和天皇が崩御されて、年号が平成にかわり66総体から平3総体と呼名変更になった。

高体連陸上競技専門部長として改めて陸上競技の準備が始まった。

詳細は少し思い出せないが、総体の前年に、草薙陸上競技場にナイター設備が完成して、米国のカール・ルイスやリロイ・バレル他、多勢の世界一流の選手を招待してナイター陸上が開催された。

全国総体でのナイター競技実施については、過去に第四十一回大会で実施す前

までいき、宿舍の問題等で実施できなくなった経緯があった。

静岡総体実施二年前から、日本陸連、全国高体連陸上競技部から、静岡にはナイター設備があるので実施してもらえないかとの要請があり静岡陸協、高体連で協議を重ねて、実施する事が決定した。

しかし、はじめてのナイターでの競技会。どうしたらよいか、特に宿舍からは、あまり遅い時間だと夕食の用意はできないと言われていた。そこで午後八時までは競技終了になるよう競技時間の変更を行った。

トラック競技は午前十一時開始、決勝は午後九時三十分開始に、フィールド競技は午前九時三十分開始、午後十九時二十分には終了するようにした。

そして、三日間は照明灯を使用して、ナイター陸上を実施する日程案を高体連の全国委員会ですべて了承された。

宿泊については、副部長の佐藤先生が静岡市の準備室に入り、市との交渉をして六〇〇名の民泊を確保していただいた。何とかクリアすることができた。

平成三年度全国高校総体、第四十四回全国高等学校陸上競技対校選手権大会が静岡県草薙総合運動場陸上競技場において、参加校数八四一校、選手二五二三名の参加を得て、八月二日競技開始。

『感動は、いっしょけんめいの熱い風』のスローガンのもと熱戦がくりひろげられ、八月五日閉会式を無時終了することができた。

本大会のナイター実施は静岡方式の、最も大きな特徴の一つとなった。

日中三十七度以上の気温と高湿度のなかでの競技を考えると、気温三十度を切った中での競技ができたことは、良い記録をもたらすものとなった。

四日間の競技結果を見ると、大会新記録が五個、タイ記録が一個誕生して大成功で終了することができた。

次に本県選手の優勝者は次の通りです。

※男子

○八〇〇m、1分51秒55

小野友誠(浜松商)

○三〇〇〇m障害、8分55秒70

山本 豪(伊豆中央)

○棒高跳、5 m 10

中森 徹(興誠) ↓現(浜松学院)

※女子

○やり投、49 m 34

青島友美(西遠)

※男子総合

○四位、二十五点(浜松商)

○七位、十三点(伊豆中央)

その他に入賞者男子七名、女子一名早いもので平3総体から二十五年が経過した。大会史上はじめてのナイター競

技が実施され、その後はナイターでの実施はなく本県のこの時のみです。

静岡陸協、高体連の組織力、研修の積み重ねが大きな力になりました。

また、総合開会式に設置した仮設スタンドを至急撤去することになりお願いした多くの審判員の方々に、夜十一時過ぎまで大変な仕事をお願いして、今思えば申し訳ない気持ちでいっぱいです。そして補助員の生徒にも気持ちよく献身的に働いていただいた。

各方面から賛辞の言葉をいただき、特に全国高体連陸上部からは、運営はスムーズ、施設も補助員も立派という有難い評価をいただきました。

今、二十五年が過ぎてあらためて、感謝の気持ちでいっぱいです。



静岡陸上競技協会
理事長 鳥井 啓市

「リオ五輪への道

…前期事業報告」

本年はリオデジャネイロオリンピック(8/12〜21ブラジル)開催の年にあたります。奇しくも、「リオ五輪」への日本代表選手が決定された「日本選手権」も今年で節目の一〇〇回を数えております。

本県からは出身者も含めて八名が代表に選出されました。これは前回のロンドンオリンピック時の五名を上回り、都道

府県別に見ても最多を誇る数ではないかと内心誇りに思っていると云うのです。

かように多くの選手達をオリンピックに送り出せる事は、後に続く夢多き選手個々の大きな励みとなり、ひいては陸上静岡の未来を明るく導く道標にもなると信じて疑いません。また、右代選手は日本選手団の旗手にも選ばれ、この上なき名誉と重ねて嬉しく思っています。出場選手全員の健闘を祈り、届けられる朗報に期待致したいと思ひます。

リオデジャネイロオリンピック
出場種目と当該選手

〔男子〕

二〇〇m・四×一〇〇m R
飯塚翔太（ミズノ・藤枝明誠高出）

二〇〇m
高瀬 慧（富士通・静岡西高出）

八〇〇m
川元 奨（スズキ浜松 A C）

四×四〇〇m R
加藤修也（早大・浜名高出）

やり投
新井涼平（スズキ浜松 A C）

十種競技
右代啓祐（スズキ浜松 A C）

十種競技
中村明彦（スズキ浜松 A C）

〔女子〕

やり投

海老原有希（スズキ浜松 A C）

さて、本年度前期に予定されていた本県各事業に目を向けますと、四月の日本平桜マラソンから七月の県通信中学まで、主催・主管競技会は大過なく無事に

終了することができました。これもひとえに関係各位のご協力の賜物と感謝致しております。では、本年前期大会を振り返ってみたいと思ひます。

第三十二回静岡国際陸上（5/3・エコパ）はリオオリンピック選考会を兼ねていることから注目を集め、これまで以上に多くの観衆が見つめる中での実施となり、男子二〇〇mで飯塚君、男子四〇〇mHで野澤君（共にミズノ）が五輪参加標準記録を突破し、オリンピック出場に大きく前進するなど、多くのトップ選手がその力を存分に発揮した大会となりました。オリンピックへの道というモチベーションが、選手個々の心をより高揚させた結果ではなかったかと推察しています。

県高校総体（5/27～29・エコパ）では、男子が東海大翔洋高校、女子は日大三島高校が総合優勝を果たしました。

東海高校総体（6/17～19・岐阜）では、個人種目（男子十七種目三十八人・女子十一種目十八人）、リレー種目（男子三チーム、女子二チーム）が全国大会（7/29～8/2・岡山）に駒を進めました。今年の夏は例年にも増しての酷暑が予想されます。自己管理をしっかりと大会に臨み、まずは自己ベスト、更にはその上を目指して頑張ってくださいと願うところです。

日本陸上選手権（6/24～26・愛知）は、リオオリンピック代表を確実にする注目の大会であったこと、また男子一〇〇mでは日本人初の9秒台突入成るか等々、陸上界に関与する方々のみならず広く関心を誘い、雨の降り続くあいにくの天候

ではあったものの、パロマ瑞穂スタジアムを埋め尽くす満員の観衆が見つめる中で行われました。この大会最終日には女子二〇〇mで福島選手（北海道ハイテク A C）が六年ぶりに、日本記録を更新するなど、第一〇〇回大会の節目を飾るにふさわしい素晴らしい大会となりました。

第三十一回県中学選抜陸上（7/2・エコパ）、第六十二回県中学通信（7/16～17・エコパ）において個人種目（男子十種目四十人、女子七種目二十八人）が標準記録を突破し、男女四×一〇〇m R 優勝の二チームと共に全日本中学陸上（8/21～24・長野）への出場を決めてくれました。全国の舞台での更なる活躍に期待を寄せたいと思ひます。

その他、若い選手がしのぎを削る国際大会、第十七回アジアジュニア選手権（6/3～6・ベトナム）、U20世界選手権（7/19～24・ポーランド）には、昨年の高校総体をはじめとする全国大会で活躍した犬塚渉君（順天大・浜名高出）、萩野大成君（神奈川大・加藤学園高出）、渡邊奏太君（東洋大・吉原工高出）、川野将虎君（御殿場南高）らが日本代表として出場し、優勝もくしは入賞を果たすなど、国際大会において目を見張る活躍がありました。この若い力が今後数多くの国際大会を経験する事によって「アジアからU20世界選手権、そして東京オリンピックへ」の道に繋がるものと信じてやみません。

最後になりましたが第七十一回静岡県陸上競技選手権（7/9～10・エコパ）会場において、県陸上顕彰表彰を行い、

功労者（六名）、日本記録樹立者（一名）、優秀選手（五名）、日本陸連中学生・高校生優秀選手章（二名）、S級審判（十三名）にそれぞれ和田会長より賞状・記念品を贈呈させていただきました。その他規定により各地区にて九十二名の審判員を表彰させていただきました旨、ご報告させていただきます。

八月以降も引き続き多くの大会が予定されており、例年にも増しての酷暑が予想されています。最中、会員の皆様には日々のご健康に留意され、一層のご協力・ご尽力を是非にもとお願い申し上げます。

第七十一回
県陸上競技選手権大会、選手権者

（7/9～10・エコパ）

男子

- ・ 一〇〇m 小川拓夢（常葉大） 10秒61
- ・ 二〇〇m 小川拓夢（常葉大） 21秒12
- ・ 四〇〇m 太田和希（筑波大） 47秒16
- ・ 八〇〇m 矢部泰志（イサシTC） 1分53秒68
- ・ 一五〇〇m 小倉知也（浜松商業高） 3分52秒75
- ・ 五〇〇〇m 中村泰之（スズキ浜松 A C） 14分17秒04
- ・ 一〇〇〇〇m 中川 学（ホンダRC） 32分32秒16
- ・ 一一〇m H 増田耕平（城西大） 14秒32

・四〇〇mH	・一五〇〇m
・服部達哉(明治大)	・赤堀かりん(浜松市立高)
・三〇〇〇mSC	・五〇〇〇m
・小田太賀(浜松商業高)	・渡辺喜恵(スズキ浜松AC)
・五〇〇〇mW	・一〇〇〇〇m
・青山福泉(東京学芸大)	・河合さおり(ホンダRC)
・四×一〇〇mR	・一〇〇〇mH
・常葉大チーム	・藤森菜那(明治大)
・四×四〇〇mR	・四〇〇mH
・常葉大チーム	・鈴木優花(磐田南高)
・三〇分18秒93	・五〇〇〇mW
・走り高跳び	・大谷菜々子(伊豆中央高)
・小池 輝(順天堂大)(大会タイ)	・四×一〇〇mF
・2m18	・駿河台大チーム(大会タイ)
・棒高跳び	・四×四〇〇mR
・竹川倅生(法政大)	・駿河台大チーム
・5m00	・走り高跳び
・走り幅跳び	・駿河台大チーム
・松原 奨(東海大)	・3分48秒84
・7m58	・三段跳び
・三段跳び	・鈴木義啓(iDEAL・AC)
・16m04	・砲丸投げ
・砲丸投げ	・赤間祐一(筑波大)
・16m11	・円盤投げ
・犬伏拓巳(静岡陸協)	・49m93
・ハンマー投げ	・森 大輝(大阪体育大)
・59m96	・ヤリ投げ
・望月雄太(法政大)	・65m35
・女子	・女子
・一〇〇m	・一〇〇m
・天城帆乃香(中京大)	・12秒01
・二〇〇m	・渡辺ひかる(駿河台大)
・24秒60	・四〇〇m
・名倉彩夏(中京大)	・55秒94
・八〇〇m	・朝日春瑠(富士市立高)
・2分12秒41	

静岡国際陸上競技大会

五月三日、エコパスタジアムで第三十二回静岡国際陸上競技大会(日本グランプリ第四戦)兼三十一回オリンピック競技大会(二〇一六リオデジャネイロ)代表選手選考競技会が行われた。海外八カ国、男女二十人の招待選手と日本選手が熱い戦いを演じた。グランプリ種目(十三種目)、男子二〇〇mは飯塚翔太選手(ミズノ)が20秒38で五輪参加標準を切る好タイムで、男子八〇〇mは横田真人選手(富士通)が1分49秒03でそれぞれ優勝した。女子二〇〇mは斉藤愛美選手(倉敷中央高校)が23秒96で優勝。また特別種目として男子障害者一〇〇mは佐藤圭太選手(トヨタ自動車)が11秒82、T44(切断など)クラスで自身の日本記録更新とアジア新記録を出した。その他サブイベントとして小学生・中学生のリレー種目なども行われスタンド応援席からは大きな声援がスタジアムに響いた。

静岡陸上競技協会顕彰受賞者

1 功労者表彰

渡辺義久 東部・富士市
 小野勲夫 東部・小山町
 村田房司 中部・焼津市
 田中 茂 中部・静岡市
 中地 恵 西部・浜松市
 鈴木康弘 西部・浜松市

2 日本記録樹立者表彰

海老原有希 スズキ浜松AC ゴール
 デングランプリ川崎 やり投 63m80

優勝

3 優秀選手表彰

川元 奨 スズキ浜松AC 日本選手権 八〇〇m 1分49秒02 優勝
 新井涼平 スズキ浜松AC 日本選手権 やり投 84m13 優勝
 中道泰貴 静岡代表 国民体育大会 成年・少年共通四×四〇〇mR 39秒79 優勝
 宮本春菜 鹿島学園高浜松 全国高校定通制 八〇〇m 2分36秒07 優勝
 三〇〇〇m 11分41秒01 優勝
 齋藤みう 町立清水中学校 ジュニアオリンピック Cクラス 八〇〇m 2分16秒99 優勝
 4 日本陸上競技連盟二〇一五年度 中学生・高校生優秀選手章
 (中学生) 谷高真依 (浜松市立浜北北部中学校)
 (高校生) 太田智樹(浜松日体高等学校)
 ○日本陸上競技連盟 S級審判委嘱者
 安藤昌史(御殿場市)、長田昭二(御殿場市)、佐竹哲郎(沼津市)、山本松雄(御殿場市)、横森春美(富士市)、小沢 誠(静岡市)、押尾豊治(焼津市)、鍋田昌宏(静岡市)、松永文夫(焼津市)、加茂 晃(浜松市)、斉藤敏幸(浜松市)、松井清和(浜松市)、鈴木宣司(袋井市)



編集後記

今夏も猛暑日が続くなか予定の大会(前半)は順調に消化しました。小学生の全国交流大会の入賞、中学生の全国標準記録突破者の活躍、高校生の全国総体への意気込みなどそれぞれの選手が目標に向かって頑張っている様子が伺えました。またリオ五輪で本県ゆかりの選手が大活躍した姿を見た子どもたちにとっては大きな刺激になったと思います。

〔編集〕

県陸協広報委員会・県陸協事務局

○橋本美智夫(編集・文責)

・水谷陽介(編集委員)

・片岡佳美(編集委員)

○写真(陸協報道 大多和・橋本)

(印刷・大日三協株)

Photograph

○静岡県選手権大会

○静岡国際陸上大会

